ニスコホームページも併せてご覧ください。

ニスコラム

その勉強法、間違ってますよ ー 国語編

ニスコ進学スクール平岡緑教室

　こんにちは、ニスコ進学スクール平岡緑教室担当の成田です。今月初めに行われた２０２２年４月道コン（北海道学力コンクール）の小学部および中学部の採点をしていて、とても気になったことがあるので、ここで共有させて頂きたいと思います。
　それは、ふだんの国語の授業では、長文読解でもそれなりに講師と応答でき、問題演習にも取り組めているのに、道コンでは得点力が伸びていない、といったことです。その理由はズバリ

「道コン」で求められるレベルが「相対的」に、

そして「絶対的に」上がっているからです。

◆原因その①　読解に使われる本文内容・設問内容自体が、現中学生にとって相対的に難しくなっていること

現中学生がふだん扱う文章の単位は、近年の SNS によるコミュニケーションの普及により、せいぜい１０～４０文字、それ以上は、極端に言えば彼らにとって「長文」とみなされます。動画やスタンプ機能はコミュニケーションの利便性を向上させますが、文章力は必然的に低下するでしょう。中２の今回の問題には「五十字程度の一文で答えなさい。」「五十字程度で書きなさい。」「六十五字程度の一文で書きなさい。」など文字数の多い記述が３つも出題されました。
私が感じたことは、それらの**大きな文字数の範囲で文を扱うことが、そもそも彼らにとって不慣れなのではないか**、ということです。ついつい**必要なことを書かず短く終えてしまったり、無理に文字数を稼ごうとして必要のないところまで書き抜いてしまうなどする**と、減点の対象になります。
講習会で使うテキストなどでも、長い記述問題はそう多くありません。点数を上げるには、古典的ですが過去問を解き、そしてそれを添削してもらうことが重要でしょう。

◆原因その②　絶対的な量が増え、時間配分と集中力の持続が必要であること

中３においては入試を想定した **50 分にテスト時間が延長され、その中で推定 7000 以上の文字を読み**、それを踏まえて正確に筆記しなくてはならなくなりました。出題傾向の変化にまだ馴染んでおらず、苦戦するのは仕方がないでしょう。これからの対策がカギを握ります。

◆原因その③　学習指導要領の改訂により、「情報の編集力」が問われていること

学習指導要領には、この急速な情報社会に対応するため、情報の編集能力に重きを置くことが盛り込まれています。つまり、長い記述問題も、**タラタラと本文内容をそのまま書けばいいわけではないのです。**必要な言葉を本文中のあちこちから集め、解答用紙の指定文字数以内に収めるため、どうしても文章を作り変える力が求められるのです。その意識が生徒にはまだまだ足りないので、まずは意識付けからです。

では、この意識付けはどのように行えばよいのでしょうか。

裏面へ

国語のテストにおいて基本的な部分は変わっていません。読解問題では、本文中にある内容から、設問に適した形で記述するだけです。（昔あったという「作者の気持ちを答えなさい」のようなものは最早、過去の遺物です。近年では学校のテストでも目にすることがありません。）当たり前なことをなぜしなければならないのか、そしてそれがなぜ難しいのかを、今回は少し工夫して、次のような例を使って簡単に説明いたします。

＜　例　文　＞　お母さんが言いました。

「ちょっとスーパーにお使いをお願いしたいんだけど、いいかしら。家にタマネギとジャガイモとニンジンとお肉はあるけど、それを煮込んだあとに味付けするものがないの。それを何種類か、１０００円以内で買ってきてくれる？」

「お使い」です。これが国語の本文の後に書いてある設問だと思ってください。本文内容はすでに共有されており、この例では日常的な料理に関しての基礎知識などは、あらかじめ共有されているものとします。

①　まず、答えはスーパーの中に必ずあります。スーパーにお使いに行ってほしいと言っているからです。スーパーとは本文のことです。ここで冷蔵庫から探す人もいます。×をもらうのは、火を見るよりも明らかですね。設問で「書き抜きなさい」といわれているのに、本文にないことから探さないでください。

②　次に、お母さんの言っていることを、すべて、漏らさず、最後まで聞いてからスーパーに出かけてください。最後まで聞かずにスーパー（本文）で迷子になって時間を浪費し、結局何も買わず帰る（解答用紙を白いままにする）のは愚かですよね。何を探してくるのか忘れたら、もう一度お母さんの言っていることをしっかり確認して（設問を読んで）ください。必ず「まずはこれ」という手がかりがあるはずです。味付けするものを、と言っているのですから、まずは調味料コーナーから探してください。スーパーが棚で整理されているように、本文も段落によって整理されています。間違ってもキッチン用品の洗剤やタオルコーナーに立ち入らないでください。

③　調味料コーナーにたどりつけたとして、「たぶん肉じゃがかなー」といって、醤油、砂糖、みりんなどをカゴに入れた人は、注意力が十分でなかった可能性があります。お母さんは、「煮込んだあとに味付けするものがないの」と言っていました。もう具材を煮込んだ後なのかもしれません。それから煮汁を投入して、果たして肉じゃがは美味しくできるでしょうか。
「ああ、わかった、多分カレーね！ここらへんにあるカレールーっぽいもの全部買っていこ！」と言って、棚にあるものをよく見ずに買い物かごに入れる（タラタラ本文から書きぬく）人が多すぎます。中にはカレールーだけではなく、レトルトカレーも混じっていることがあります。レトルトカレーは味付けには使えませんよね？もうニンジンなどの具も入っちゃってますよね？本文中の指示語（それ）などは抜いたり、置き換えたりしてください。

④　さて、ここでカレールーだけをカゴいっぱいに入れて誇らしげにレジに向かわないでください。「それを何種類か」と言っています。カレー、シチュー、肉の種類によってはハヤシライスなども選ばなければなりません

⑤　最後に、金額（文字数）などの制限をチェックしてみましょう。1000 円以内で、と言っていたのにオーバーしてはだめですし、100 円でもだめです。

さて、いかがでしたでしょうか。中には、スーパーで買ってきた（本文から抜いてきた）ものをそのまま出すのではなく、すこし料理して（自分で適する形に書き換えて）初めて正解になるものもあります。よく見直して、相手の日本語をしっかり読み取れているか、自分の日本語に誤りがないか気づく能力、それが試験における国語力だと思ってください。本文の内容を「たぶんここらへんかなー」でいいかげんに抜き出しても、△や×がつく場合が多いことに気づいてください。確信をもって答えられるようになるには、経験が必要です。意気揚々とお使いから帰って、初めてお使いの失敗に気づくように、テストも提出した後に採点されて、初めて間違いに気づく場合が多いでしょう。

つまり、国語の正しい勉強法とは、

圧倒的な失敗経験　⇒　減点となった要因についての、他者からの追及
⇒　次に同じようなミスをしないための、注意力の形成　⇒　自己を客観的に、多角的にみる能力の獲得

これを何度も経験することが、国語の得点力につながっていくのです。失敗から学び、師からのダメ出しを弟子が受け止めて、少しずつ自らが師になっていく、まるで芸事のような地道さを必要とするのが、国語の困難さの特質であり、また面白いところではないでしょうか。